

第1章  
ひと

再現！よまこはま市民生活

三二七万人の市民が暮らす横浜。その中で、横浜市民はさまざまなかまを舞台に、学ぶ、働く、遊ぶ……など、多様な活動を日々繰り返し広げている。ここでは、市民はどんなことを考え、どのような暮らしを営んでいるのだろうか。

横浜市が行った「市民生活行動調査」からは、それぞれに多彩な市民の暮らしが浮かび上がってきた。横浜のまちの中で、そして外で、活動を展開する横浜市民の一日を、まず三つの家庭をモデルに紹介してみよう。

忙しくても家族の

コミュニケーションは欠かせない

■通勤・通学者のいる家庭の一日

緑区の鈴木さん一家の場合

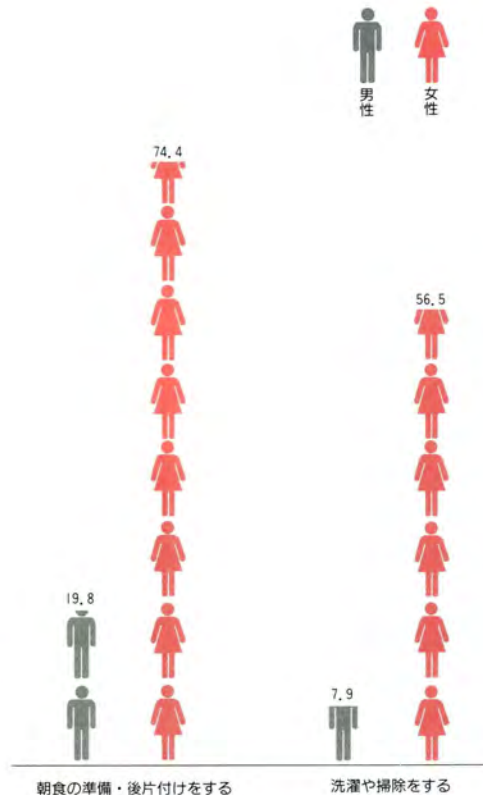
朝は何かとあわただしい

緑区に住む鈴木一郎さん一家は、夫婦二人に中学生の女の子と小学生の男の子との四人家族。一郎さんは東京の会社に、妻の和子さんも横浜市内の会社に勤めている。

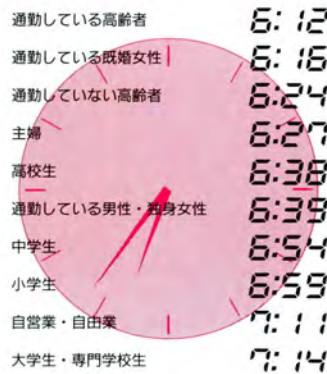
① 家で一番早起きなのは和子さん。午前六時過ぎには布団を抜け出し、朝食の準備を始める。準備のかたわら和子さんは簡単な掃除を、一郎さんは洗濯をすませるのが日課になっている。② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

朝シャンをする娘、なかなか起きてこない息子と、一家四人が

②朝の家事 (%)



①横浜市民の平日の起床時刻



③小中学生の帰宅時刻



※「横浜市民生活行動調査」(平成4年7月)  
…無作為抽出した市民3300人に対して実施。

朝食や身支度を行う平日の朝は、目が回るような忙しさだ。  
一郎さん、娘、息子の順に出かけ、最後に家を出る和子さんが  
玄関の鍵をかけるのは午前八時頃。

### 子どもも結構忙しい

午後三時。長男の健太君が戻ってきた。いつもはクラスの友だちと近所の公園や商店街で遊んでから帰るからもう少し遅いのだが、きょうはスイミングスクールのある日だから、一人ですぐ帰ってきたのだ。家に帰ると、健太君はまずお母さんに頼まれていた洗濯物を取り入れた。一方、中学生の良子さんは、部活をおえて五時半に帰宅、食卓のお菓子をつまみながら自分の部屋に入る。塾のテキストと格闘しているうちに、あつという間に六時になった。塾のカバンを持って家を飛び出し、自転車をこぎ出す。

### 夕食は二回に分けて

これから八時半までの二時間は、テレビのことを忘れて勉強だ。  
午後六時過ぎ、和子さんが帰宅する。  
夕食の準備は、夫婦どちらか早く帰宅した方がやることになっているが、だいたい和子さんの方が早く帰るので、夕食の準備をすることになる。買い物は休日にまとめ買いをしてあるので、夕食はその材料を使って準備する。

夕食の準備ができ、和子さんと健太君の二人で食べ始める。話題は学校のことや友だちのこと。

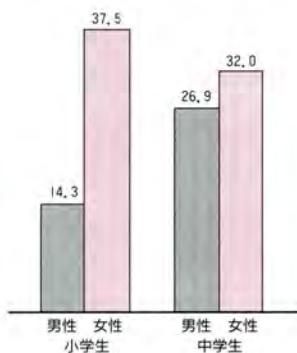
夕食が終わった頃、一郎さんが帰ってきた。時計は八時を回っている。一郎さんの会社はあまり残業のない会社なのだが、東京にあるので、寄り道をせずに戻ってきてても、八時近くになることが多い。

着替えをすませた一郎さんは、お風呂に湯を入れると、健太君と一緒に入った。湯船の中で親子の会話ははずむ。

①横浜市民の帰宅時刻（通勤・通学者）



②家の手伝いをする小中学生（%）



④小中学生の習いごと（%）

		小学生 (%)	中学生 (%)
そろばん	男性	8.6	5.9
	女性	11.1	15.4
習字	男性	22.9	11.8
	女性	60.0	26.9
英語	男性	14.3	11.8
	女性	15.6	15.4
ピアノ	男性	17.1	5.9
	女性	48.9	50.0
エレクトーン	男性	2.9	5.9
	女性	2.2	3.8
野球	男性	34.3	5.9
	女性	-	-
バスケット	男性	2.9	-
	女性	11.1	-
剣道	男性	5.7	23.5
	女性	2.2	-
スイミング	男性	20.0	-
	女性	11.1	3.8
テニス	男性	-	17.6
	女性	2.2	-
演劇・芸術	男性	-	-
	女性	8.9	7.7

③横浜市民の夕食時刻



⑥⑦小中学生の塾事情

	小学生 (%)	中学生 (%)
学習塾に通っている子どもの割合	51%	51%
学習塾は週に何日	平均3.4日	平均2.9日
学習塾はどこにある*	住んでいる区内 79%	住んでいる区内 83%
	横浜市内 23%	横浜市内 15%
		東京 2%
		その他 2%
塾での勉強時間	平均2時間5分	平均1時間56分

\*複数の塾に通う小中学生がいるため100%を超える

お風呂から一郎さんがあがる頃、良子さんが塾から帰宅し、二人で一緒に夕食をとる。こうして、なるべく親子の会話を保つように心がけているのだ。家族の帰宅時間が違うので、どうしても夕食は二回に分かれることが多くなる。

### それぞれの夜が更けていく

時刻はもう九時半だ。

一郎さんと良子さんの夕食が終わり、二人が食後の跡片付けをすませた後、しばらく四人で話をしていたが、すぐに健太君は宿題、良子さんは友達に電話をしなきゃといいながら自分の部屋にこもってしまった。

和子さんの「そろそろ寝なさい」という声に、健太君は宿題の上に広げたマンガをあわてて閉じ、良子さんはコードレス電話の送話口をおさえて、「ハイ」と声をそろえて返事をする。

子どもたちが寝る用意をしている午後十時過ぎ、一郎さんはテキストを片手にテレビの英会話教室を見ている。和子さんは、週に一日通っているカルチャーセンターのテキストの『源氏物語』を読んでいる。こうして鈴木さん一家の夜は更けていく。最後まで起きていた一郎さんが枕もとのスタンドのスイッチを切るのは午前零時近くになってのことだ。

## 本日もなにかと多忙

### ■高齢者家庭の一日

#### 中区の高橋さん一家の場合

### 小鳥のさえずりで一日が始まる

中区に住む高橋敏男さんは今年七十歳。子どもたちが次々と独立し、いまでは二つ違いの久子さんと二人暮らしだ。

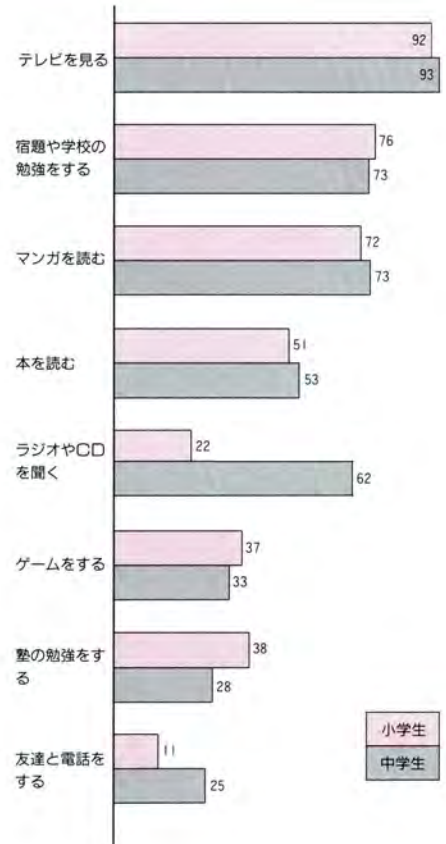
⑫横浜市民の就寝時刻



⑪横浜市民の平日の夜の行動(%)



⑩小中学生が夜にしていること(%)



朝起きて着替えをすませた敏男さんと久子さんは、庭に出て自己流の体操を始めた。

朝の体操はしばらく前から始めたもので、いまでは毎朝の日課になっている。

二人でゆっくり朝食をとったあと、敏男さんは庭の掃除と植木の手入れである。季節や天候につれて、毎日、表情の変わる植木たちを相手に、敏男さんがもつとも無心に過すひとときだ。久子さんは、朝の連続テレビドラマ。これも久子さんには欠かせない朝の楽しみとなっている。

この街で生まれ育った敏男さんは、郷土の歴史を研究するのが趣味。いまではその豊富な知識を買われて、近所の小学校の「ゆとりの時間」に、講師として子どもたちに郷土の話聞かせに行っている。きょうはその日だ。植木の手入れを早々と切り上げ敏男さんは、足取りも軽く出かけて行く。

**昼間の時間はそれぞれが好きな事に使う**

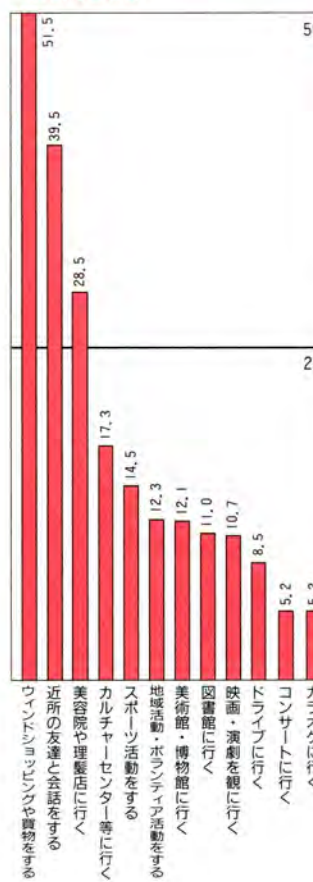
昼過ぎに敏男さんが戻ると、二人で昼食をとる。きょうは学校があったので、いつもより遅めだ。

「じゃあ行ってきますね」。昼食が終わってテレビをながめていた敏男さんに、久子さんが声をかける。「ああ、気をつけてな」と返事をして、敏男さんはそれを機にテレビを消し、囲碁の本を取り出した。碁は四十年来の趣味である。縁側でパチリパチリと一人石を並べることにする。

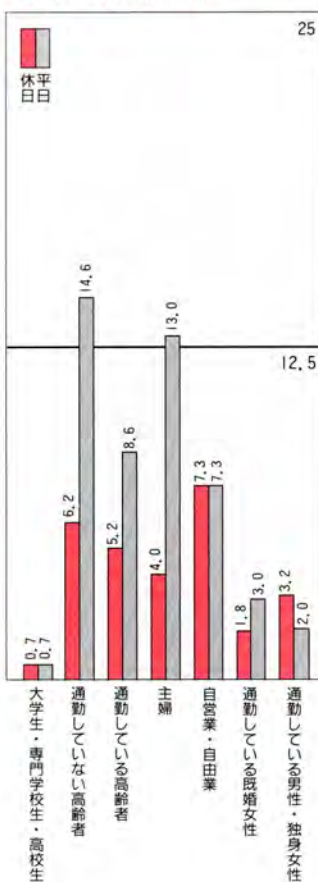
一方、久子さんは、アートフラワールの教室に向かっていた。子どもに手がかからなくなった頃から、家事の合間をみつけては近所の友だちとカルチャーセンターや市民講座などに通うようになり、いまはアートフラワーに取り組んでいる。

教室でのおしゃべりが楽しくて、近くの喫茶店で延長戦をやることになった。こうしておしゃべりで若い世代の新しい友だちが増えていくことも、習い事の効用だと久子さんは思っている。

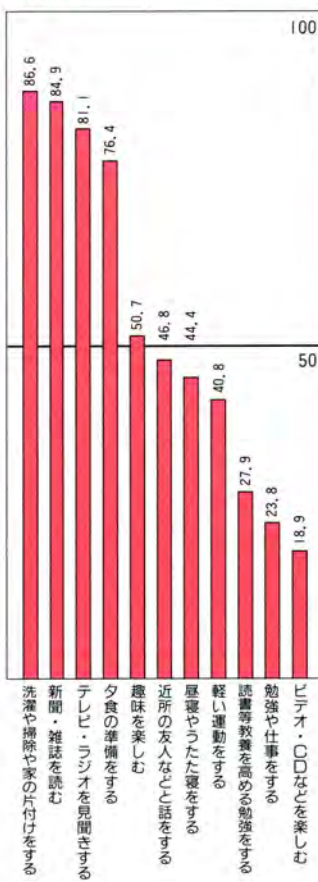
⑬通勤していない人の平日の日中の外出行動(%)



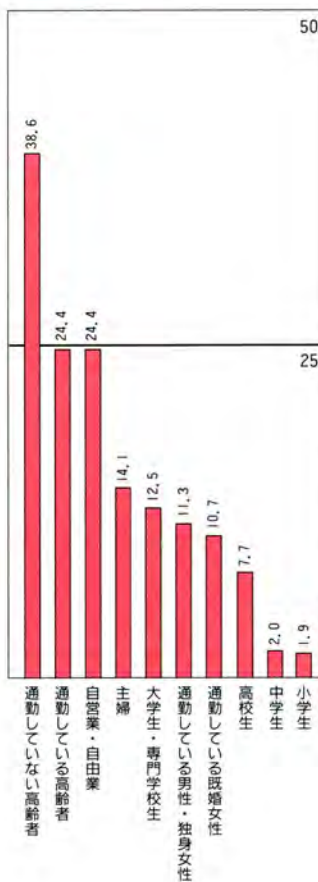
⑮地域活動・ボランティア活動をよくする人の割合(%)



⑭通勤していない人の家での過ごし方(%)



⑲朝の運動(%)



## 孫の声を聞いていい夢を見る

出かけたついでに買い物をしてきた久子さんは、手早く夕食の準備をすませ、二人で夕食を始めた。テレビをつけると、ちょうど七時のニュースが始まったところだ。夕食が終わって二人でテレビを見ていると、電話のベルが鳴った。「おじいちゃん、今度の休みに遊びに行くからね」。市内に住んでいる孫からの、うれしい声が耳に飛び込んできた。隣で久子さんが早く替われと敏男さんをつついてる。

電話が終わると九時を過ぎていた。敏男さんは、毎日の日課となっている布団を敷き終えると、ゆっくりお風呂に入る。

先に布団にもぐり込み、久子さんが湯を使う音を遠くで聞いているうちに、敏男さんは次第に眠くなってきた。

久子さんが風呂から上がって眠っている敏男さんの顔を見ながら布団に入ると、時計は十時半を回ったところだった。

## 不規則だけど時間は自由

### ■一人暮らし大学生の一日

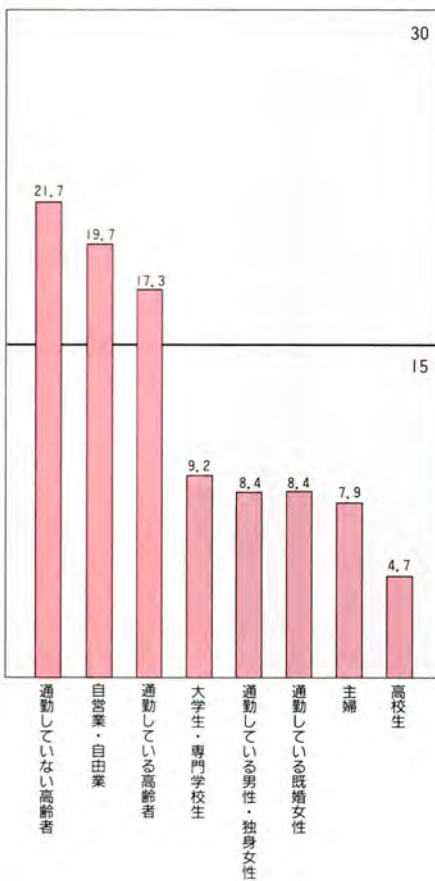
### 港北区の田中さんの場合

## きょうは二時間目から

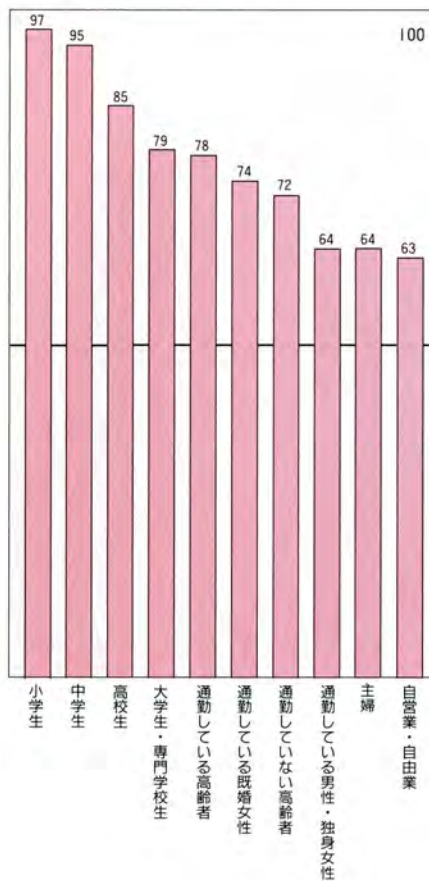
「しまった、もう九時だ」。港北区に住む大学生の田中さんは、オーディオのデジタル時計を見て、慌てて布団から身を起こした。

田中さんの通う大学は、東京の都心にある。アパートからおおよそ一時間の距離だ。いつもは七時半には起きるのだが、きょうは授業が二時間目からということもあって、目覚しをかけずに寝てしまったのだ。朝食はコーヒー一杯ですませ、新聞にざっと目を通してから、駅に向けて飛び出した。

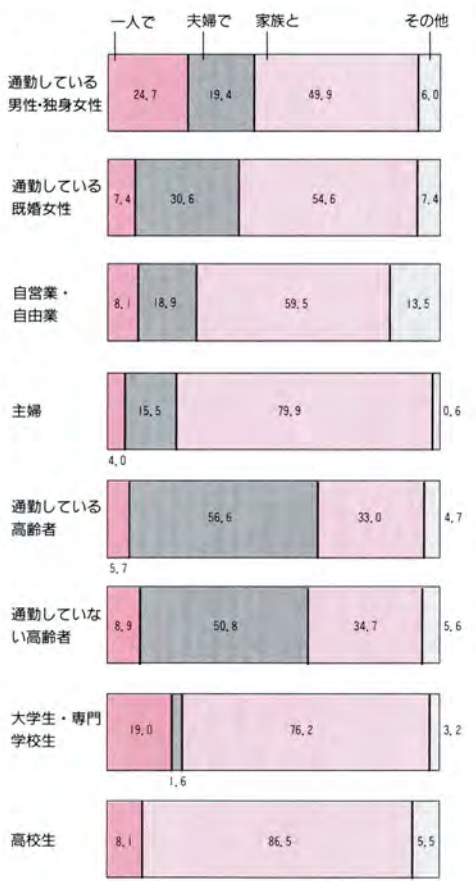
⑬朝、新聞を読む時間(分)



⑭横浜市民の朝食摂取状況(%)



⑮夕食を誰と食べるか(%)



二時間目の授業が終わり、すいたお腹をかかえて学生食堂へ。混雑している学生食堂で昼食を食べ終えた田中さんは、図書館に向かった。

「きょうはもう授業がないから、じっくりとレポートに取り組めるゾ」。椅子に座って、テキストに向かう田中さんだった。

### アルバイトのない日は寄り道デー

時計を見ると、午後三時を回っている。そろそろ仲間が集まってくる時間なので、田中さんは、とりあえず所属しているテニスサークルのサークル室に向かった。サークル室では友人が二人、次の合宿の相談をしていた。授業の話や日曜日に予定しているコート借りての練習のことなど、ひとしきり雑談をする。

田中さんは週に三回、港北区の学習塾で小学生と中学生を教えるアルバイトをしているが、きょうはアルバイトのない日だ。そこで、近くの居酒屋で軽く一杯ということになる。

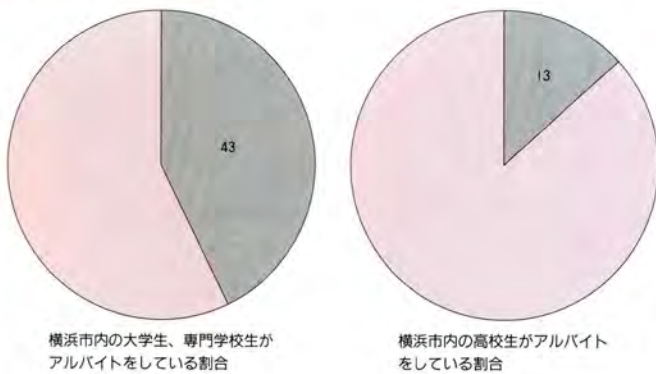
### 居酒屋からカラオケへの道

「へい、いらっしやい」。景気のいい声に迎えられて店内に入り、まずはビールで乾杯。それぞれが好きなものをつつきながら、いつもの話が始まった。話題は授業のこと、就職のこと、アイドルタレントのこと、子どもの頃のこと、政治のことなどさまざま。アイドルも政治も一緒に話ができるのが、いまどきの大学生である。

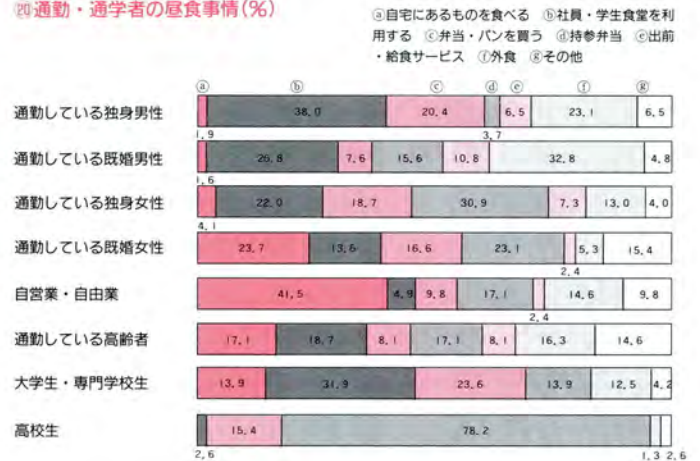
勘定をすませて表に出ると、ばったりと同じゼミの女性の二人づれに出会った。そこで、今度は五人でカラオケルームに行くことになる。レポートのことが田中さんの頭を一瞬よぎったが、気づくとマイクを握っていた。

「明日こそはレポートを仕上げるぞ」。終電で帰宅した田中さんは、着替えもそこそこに布団の中にもぐり込んだ。オーディオのデジタル時計は午前一時を回っていた。

㉒ 学生のアルバイト事情(%)



㉓ 通勤・通学者の昼食事情(%)



㉔ 横浜市民のカラオケ事情/平日カラオケに行く人(%)



㉕ おつきあい事情/日ごろ、つきあいの深い人(複数回答・%)

	家族や親類	近所の人達	仕事・学校関係の人達	スポーツや趣味等で知り合った人	地域活動やボランティアでの知人達	その他
通勤している男性・独身女性	60.6	10.9	80.1	21.5	2.4	7.4
通勤している既婚女性	69.6	27.7	65.2	17.9	3.6	7.2
自営業・自由業	56.1	29.3	65.9	17.1	7.3	7.3
主婦	68.4	59.9	26.0	20.3	7.9	9.6
通勤している高齢者	66.4	34.5	44.0	19.8	9.5	10.3
通勤していない高齢者	68.5	43.8	17.7	30.8	14.6	11.5
大学生・専門学校生	40.3	8.3	93.1	29.2	-	9.7
高校生	67.9	9.0	97.4	14.1	1.3	2.6

# 平日の疲れを回復して 自由時間を楽しむ 休日の横浜市民

## 平日よりも二時間の朝寝坊

日曜日の鈴木さん一家の朝は遅い。一番最初に起きるのは、平日には一番遅くまで寝ていた健太君で、時刻は七時四十七分だ。八時を回ると母親の和子さんが、そして九時近くになって良子さんと一郎さんがやっと布団から出てくる。健太君を除くと、みんな二時間近くも朝寝坊をしていた計算になる。

最後に起きた一郎さんは、布団をペランダに干し始めた。働いているため平日にはできないので、せめて休日には…。そんな思いの表われである。

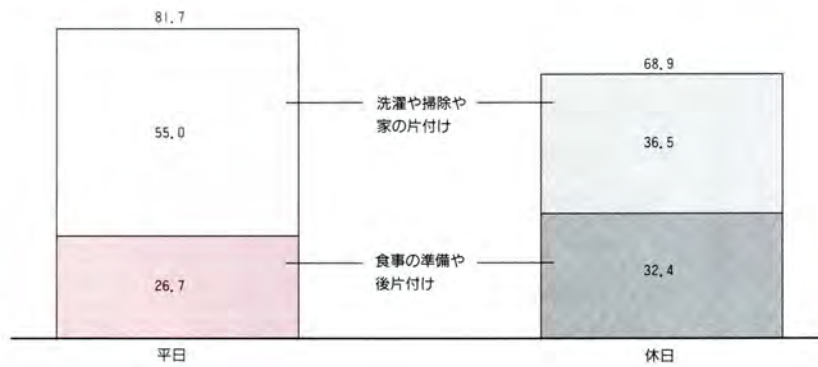
## 休日は家族そろってショッピング

午前九時過ぎに遅い朝食を食べ、お昼近くに家族そろって車で出かける。

平日に十分な買い物ができない鈴木さん一家では、月に二〜三回、車で近くのショッピングセンターに出かけ、食品から日用品までまとめ買いをするのだ。健太君がサッカークラブに入っているため、家族そろって外出するのはまだだ。だから、日用品の買い物もちょっとしたドライブであり、ファミリーレジャーになっている。

夕方帰宅して、午後七時には家族そろって夕食だ。日頃ゆっくり話のできない親子の会話が弾んで、食卓はいつもより明るいようだ。「同じご飯でも、みんなで一緒に食べるとおいしいのはどうしてだろう」と健太君はひそかに思っている。夕食後も、家

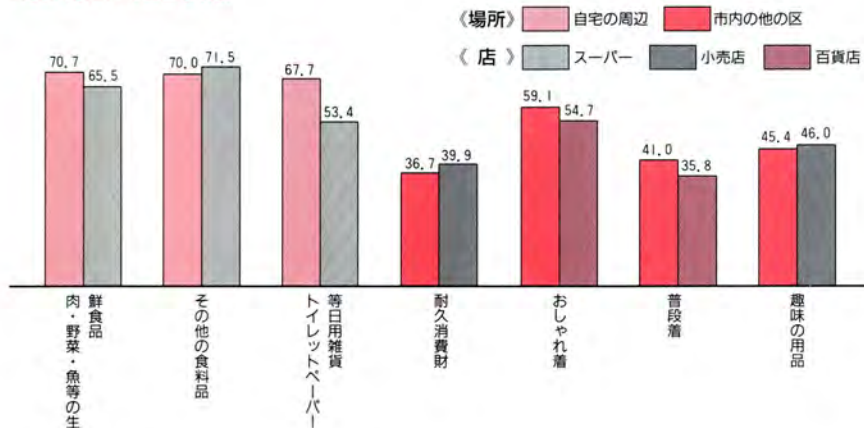
⑤家事に費やす時間(分)



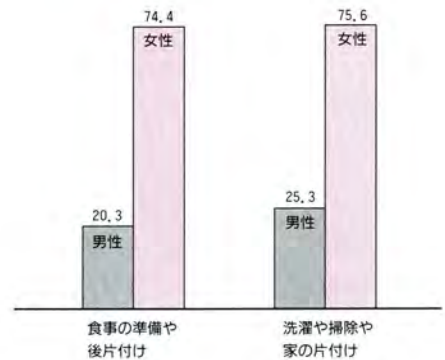
⑥横浜市民の休日の起床時刻



⑦買い物に行くところ(%)



⑧休日の家事(%)



族そろってテレビを見たり、たまにはトランプゲームをするなど家族のコミュニケーションを楽しんでから、明日に備えて少し早めに眠りにつく。

### 休日もいきいき活動する高齢者家庭

一方、こちらは高橋さん一家の日曜日の朝。夫妻の起床時刻もいつもより一時間近く遅い午前七時頃。やはり休日は生活のリズムが変わるようだ。

午前中は、いつもに増してゆったりとすごす。昼食後、久子さんは来週行われる町内のお祭りに出す出店の打ち合わせのため、町内会館へ出かける。すべて手作りのお祭りなので、久子さんも張り切っている。

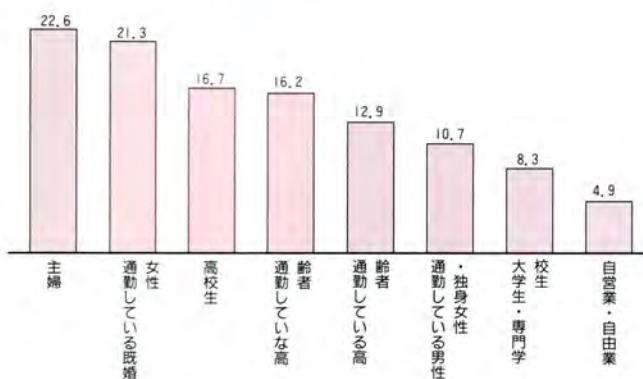
敏男さんは、市内に住む娘と孫を出迎えにいいいそと駅へ。思わず頬がゆるんでしまう。

夕食は、いつもと打って変わった賑やかさ。笑い声ははじける食卓に、心なしか食欲もいつもより旺盛になった気がする二人だった。

### サークルの仲間とテニスを楽しむ一日

午前九時半。いつもより二時間近く多く眠った田中さんは「よし」と一声上げて布団から脱け出した。睡眠十分というせいもあるのだろうが、平日に比べて休日の朝はいつもさわやかに感じる。FMラジオから流れる音楽を聴きながら、コーヒーにパンという朝食をすませて、たまった洗濯にとりかかる。きょうは午後からサークルの仲間とテニスをするので、出かける前にすませておく必要がある。ラケットとウェアの入ったバッグを手に玄関に立って、一DKの部屋を見回してみる。「うーん。来週あたり掃除をしなければいかな」、ひとりごとを言いながら外に出た。きょうは絶好のテニス日和だ。

⑩お祭りや地域行事などへの参加 (%)



⑪免許保有と自家用車保有率 (%)



⑫よくするスポーツ (%)



⑬休日の外出先での過ごし方 (%)

